

# 国語科学習指導案

日 時 令和2年5月29日(金)  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
2年A組35名  
会 場 2A教室  
授業者 中村 正成

## 1 単元名

フォトストーリーで身の回りの生活を変えよう

## 2 単元について

### (1) 学習者観

本校は広報文化が盛んであり、班ごとに新聞を2か月に一度程度発行している。新聞記事の内容としては、学級での出来事や学校生活を向上させるための意見文、社会ニュースと自分たちの生活を結び付けたものなどが多い。国語科としては、調査活動を行わせ、その結果を根拠にしながら意見をまとめる新聞記事の書き方の指導を行っている。その際、図表の提示の仕方としてどのようなグラフが良いのか、そして、調査結果をどのように解釈し、どのように自らの意見に結び付けていくかを考えさせた。

また、春季休業中の課題として、任意の歌詞を選ばせ、その良さを鑑賞文に表現させる活動を行った。生徒は、その歌詞の魅力をこれまでに学習した詩の学習を想起しながら、表現の特徴や言葉の選び方などに着目して、構成に気を付けて鑑賞文にまとめることができた。

### (2) 学習材観

中心学習材 『小さな労働者』(ラッセル・フリードマン/千葉茂樹・訳)(新編新しい国語2 東京書籍)

中心学習材である『小さな労働者』は、あすなる書房より1996年に出版された『ちいさな労働者～写真家ルイス・ハインの目がとらえた子どもたち～』から抜粋されたノンフィクションである。写真家ルイス・ハインは当時問題となっていたアメリカでの児童労働に立ち向かい、危険な環境で働く子供たちの写真を撮り続けた。その際、写真と写真の最も効果的な組み合わせを工夫し、「フォトストーリー」という形で表現することで、世論を動かし子供たちを過酷な労働から救い出すのに貢献した。『小さな労働者』は、ルイス・ハインの言葉や彼の撮った写真を引用しながら当時の社会的状況や児童労働に苦しむ子供たちを伝えている。ルイス・ハインの「フォトストーリー」を分析すると、写真だけでは伝わらない具体的な事柄を、客観的に淡々と表現していることがわかる。「児童労働は悪だ」と直接的な意見をそのまま言葉にして表現するよりも、読み手の心に児童労働の残酷さやその問題を投げかけ、考えさせるような効果を生んでいる。中学生になると、世の中の出来事に関心を持ち、様々な問題に対して課題意識を持つようになる。生徒には、自分の考えを表現するには様々なアプローチがあることを示しつつその手法を分析させ、自分たちの身の回りの課題について取り上げさせ、見た人の意識が高まるようなフォトストーリーを作らせたい。

### (3) 教科研究との関わり

本校国語科において育成すべき資質・能力を「ことばの力」と設定している。本単元において育成すべき「ことばの力」を以下の通り示す。

学校生活や社会生活から問題を取り上げ、伝えたいことを明らかにしながら表現の効果を考え、文章を組み立てる力

また、上記のような「ことばの力」を育成するために、以下の手立てを講じることとする。

#### ① 言葉による見方・考え方を働かせる「真正の学びの場」の設定

本単元では、ルイス・ハインのフォトストーリーをモデルとしながら、自分の身の回りの問題点について取り上げ、それについて問題を読み手に投げかけるフォトストーリーを書く活動を行う。フォトストーリーは、問題に関する写真を選択し、それを組み合わせながら客観的な言葉を用いて文章を綴るといった特徴があり、これによって読み手は心を揺さぶられる。学習材をもとにその書き方を分析させることでその効果を考えさせ、どのように表現すれば自分自身の伝えたい意図が効果的に伝わるか、自身の作品作りに生かすように指導したい。

第一次では、『小さな労働者』を読ませ、ルイス・ハインがどのような思いでフォトストーリーを作ったのかを考えさせる。また、どのような表現の工夫があるか、フォトストーリーを分析させる。

第二次では、自分自身のフォトストーリー作りを行う。学校生活や社会など身の回りで問題だと感

じていることを挙げさせ、写真を選び構成しながら、第一次での学習をもとに文章を作っていく。その際、完成までに幾度かペアやグループで交流し、ブラッシュアップを図りたい。

第三次では、作成したフォトストーリーを読みあい、その良さを交流する。また、学習したことや活動が教室内でとどまらないよう、校内などに掲示し実際の身の回りの問題の解決に役立てていく。

## ② 国語科における学びの自覚化

本単元では第二次の学習において、自分の作品を作っていくが、その際に幾度かグループ等で読みあいながら推敲していく。その際に、どのように推敲していったかを保存しながら、なぜ直したのか、また直したことによってどのような効果が生じたかを分析させることで、学びの自覚化を図りたい。また、初稿と最終稿を読み比べることで、自分の表現の仕方が高まっていくことを実感させたい。

## ③ 国語科における情報及び情報技術の活用

上記②にも関わるが、自分の作品がブラッシュアップされる過程が分かるように、パワーポイントを活用して作成に当たりたい。1ページ目に初稿、2ページ目に第2稿というように、初稿をベースとしながら推敲していく。下のノート欄には、直した理由とそれによる効果を順次書き入れることによって、自分の表現について客観的に分析させていきたい。

### 3 単元の目標

#### 【知識及び技能】

- ・ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 ((2) ア)

#### 【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 (B (1) ア)
- ・ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 (B (1) ウ)

#### 【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

### 4 単元計画

#### (1) 本単元における言語活動

身の回りの学校生活や社会生活から問題を取り上げ、それに関するフォトストーリーを書く。

(関連：【思考力・判断力・表現力等】 B (2) ア)

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア)	① 「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 (B (1) ア) ② 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B (1) ウ)	① 進んで文章全体を整え、モデルや他者のアドバイスを参考にしながら見直しをもち、自分の考えが伝わるフォトストーリーを書こうとしている。

#### (3) 指導と評価の計画

次	時	学習活動	評価する内容			評価方法
			知技	思考	態度	
一	1	(1) 写真をもとに、身の回りの問題点を見直すよう訴える文章を試作し、学習の見直しをもつ。 (2) 中心学習材を読み、ルイス・ハインの思いに触れる。				※ 本時は、B (1) ウに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としないことから、本単元の評価には含めない。
	2	(1) フォトストーリーにある写真と文章を見比べながら、フォトストーリーの表現の特徴を分析する。	①			① ここでは、文章の分析を通して、フォトストーリーの文章上の特徴をしっかりと押さえているかを確認する。 【学習シート】

二	3	(1) 身の回りから問題を見つけ、フォトストーリーに表現したい写真を選んだり撮影したりする。 (2) 写真に合う文章を書く。		①	① ここでは、身の回りから問題を見つけ、何を伝えたいかを明らかにしながら写真を選び文章を書いているかを確認する。 【学習シート・初稿】
	4 本 時	(1) 初稿をペアで読みあい、アドバイスを受ける。 (2) アドバイスをもとに第2稿を作成する。 (3) 第2稿をグループで読みあい、アドバイスを受ける。 (4) アドバイスをもとに最終稿を作成する。		② ①	② ここでは、フォトストーリーの文章上の特徴を意識しながら推敲し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫しているかを確認する。【最終稿】 ① ここでは、進んで文章を整えようとするとともに、他者のアドバイスに耳を傾けながら粘り強くフォトストーリーを書こうとしているかを確認する。【初稿から最終稿までの記述・OPPシート】
三	5	(1) 全体で作品を交流し、単元を振り返る。		①	① ここでは、お互いの作品を読みあい、自分の表現や今後の学習に生かそうとしているかを確認する。【OPPシート】

## 5 本時について

### (1) 指導目標

フォトストーリーの特徴をもとに自作した原稿を読み合わせ、読み手に思いが伝わるフォトストーリーを完成させる。

### (2) 評価規準

#### 【思考・判断・表現】

② 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B (1) ウ)

#### 【主体的に学習に取り組む態度】

① 進んで文章全体を整え、モデルや他者のアドバイスを参考にしながら見通しをもち、自分の考えが伝わるフォトストーリーを書こうとしている。

### (3) 授業構想

生徒は、前時までには学校生活や社会など、身の回りの問題点を挙げ、それに関わる写真を選んだり撮影したりして、それを構成しながらフォトストーリーの初稿をパワーポイントで作成した。本時は初稿を読み合わせ、交流を通して練り上げ、作品を完成させる時間である。

導入では、これまでの学習を振り返るとともに、学習課題を確認し、本時の見通しを持つ。

展開の前半では、初稿をペア同士で読みあい、自分の思いがより伝わるように推敲する。前時に作成したパワーポイントの1ページ(初稿)を見せあい意見を述べ合うが、その際にフォトストーリーの特徴である、写真だけではわからない情報を具体的に述べることで、相手にその問題を伝えるということを意識して話させたい。また、話合いを受けて自分の文章を書き直すか、その際は初稿を消さずに初稿を2ページ目以降にコピーし、それを直していく。これにより、時間の短縮と自分の作品がどのように変化していったかを振り返ることができるようになりたい。また、ノート欄に直した理由とそれによる効果を書かせ、自分の表現について客観的に振り返らせたい。

展開の後半では、4人グループで第2稿を推敲する。それぞれ4分程度でペアで受けたアドバイスと、それによってどのように書き換えたかを発表させ、それに対する意見を出し合わせる。意見を出す側は、書き換えによって本人が狙った効果を生み出しているかを考え、場合によっては代案を考え提示していく。意見をもらう側は、意見をメモしながら自分の作品作りに役立てるようにする。この段階では、具体的な記述とともに、さりげない助詞や副詞、動詞等の遣い方など言葉の選び方にも着目させ、作品をブラッシュアップさせていきたい。

終末では、自分の作品作りの過程を振り返らせ、他者との関わりから書き直すにあたって気づいたことをまとめさせたい。

次時では、優秀な作品を全体で交流し、本単元で学んだことを今後の学習でどのように生かしたいかを考えさせたい。また、できた作品を校内で掲示し、教室での学びを実生活に広げていきたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	時間 (分)	評価規準および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入	1. 前時までの学習を振り返る。 【フォトストーリーの文章のポイント】 ① 写真からだけでは分からない具体的な内容を文章に入れ込む。 ② 一般論に終始せず、写真についての説明をする。 ③ 直接的な呼びかけなどの表現を入れない。 ④ 言葉を吟味し効果的に用いて、さりげなく自分の思いを伝える。	3	
	2. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 【学習課題】 フォトストーリーの特徴に注意して、心を動かす作品を完成させよう	1	
展開	3. ペアで初稿を読みあい、第2稿を書く。 (1) ペアで初稿を読みあい、改善したほうが良い点を述べ合う。 (2) 話し合いを受け、パワーポイントに第2稿を記述する。 ① パワーポイントの2ページ目に推敲後の文章を書く。 ② ノートの欄に直した理由とそれによって狙った効果を書く。	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に、フォトストーリーの文章のポイントの①具体的な内容を文章に入れ込むこと、②一般論に終始していないこと、③直接的な表現を盛り込んでいないかということについて着目したい。</li> <li>iPad のパワーポイントに初稿のスライドを複製したのち、推敲後の文章を書き込む。</li> </ul>
	4. 4人グループで第2稿を読みあい、最終稿を仕上げる。 (1) 【発表者】 ペアでの話し合いを受けて書き直したところと、書き直した理由・書き直しによって狙った効果を発表する。 【聞き手】 発表を聞き、発表者が狙った効果について考え、新たにアドバイスを述べる。 ※ 4回繰り返す。 (2) 交流を受け、最終稿を仕上げる。	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に、フォトストーリーの文章のポイントの④言葉を吟味し効果的に用いることで、自分の思いを伝えようとしているかという点について着目したい。また、分かりにくい表現等についてもブラッシュアップしたい。</li> <li>一人について4分間話し合う。</li> <li>アドバイス例を全体で交流する。</li> </ul> 思② 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。【最終稿】
終結	5. 本時を振り返る。 ・ ペアでの話し合いの時に、Aさんから『○○』の表現が直接的だから変えた方がよい」と言われ、二人で考えて考えさせるような表現に変えてみた。他の人たちは同じところをどう表現しているか知りたい。 ・ Bさんの作品は、事実を淡々と書いていて逆に心動かされた。自分の作品もBさんの書き方を参考にすることで、より危機感を読み手に与えるものとなったと感じる。他の人の作品を読みたい。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に、他者との関わりからどのように文章を書き直し、改善されたと感じたかを中心に書かせたい。</li> </ul> 態① 進んで文章全体を整え、モデルや他者のアドバイスを参考にしながら見通しをもち、自分の考えが伝わるフォトストーリーを書くようとしている。【初稿から最終稿までの記述・OPPシート】
	6. 次時の見通しをもつ。	1	